（別紙4）　令和　6　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	2392700031		
法人名	社会福祉法人　愛燦会		
事業所名	グループホーム長寿の家（ふじユニット）		
所在地	愛知県津島市江西町4-148		
自己評価作成日	令和6年11月25日	評価結果市町村受理日	令和7年4月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2392700031-00&ServiceCd=320&Type=search

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人あいち福祉アセスメント
所在地	愛知県東海市東海町二丁目6番地の5　かえでビル　2階
訪問調査日	令和7年2月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

いつまでも住み慣れた地域で、顔なじみの関係の中安心で安全な高齢期の生活を送れるよう「あたたかい家」を目標に取り組んでいます。少人数だからこそ、細やかな対応ができ、安心で穏やかな生活を一日でも多く過ごす事を目的に数々のプログラムや支援体制が考えられています。
①毎月の食事レクリエーションの開催
②週に一度以上イベントや運動プログラムの実践を行う
③食事の支度や後片付け、洗濯物干し等の家事なども職員と共同で行う事で、生活リハビリや日常生活自立度の維持に努めている
④感染症に十分配慮しながらその中でも実行可能なプログラム(園芸や手芸)を行い、また、ご近所からのおすそ分けなどを利用した食レクを楽しむことができ、地域とのつながりを感じることが出来ます。
⑤三方よしプラス1の運営　入居者様ご本人・ご家族・地域の方々に加え働いている職員にも良いと思っていただけるようグループホームとしての「社会的意義」を常に考え運営の基本とする。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

事業所は開設14年を迎え、閑静な住宅地に位置している。藤の花の名所となっている天王寺川公園が近くにあり、藤祭りや天王祭りなどに出かけ賑わいや懐かしみ、季節の移ろいなどを感じる場所ともなっている。町内会との関りの継続性や文化祭に入居者の作品出展、散歩や買い物、大正琴やサックス演奏などのボランティア活動も順次再開し、以前のように地域の一員として交流を深めている。法人の理念を基に、職員で考えた事業所理念「家族のようなあたたかい家」を拠り所に入居者に寄り添ったケアに努めながら、より一層地域に密着したグループホームにしていきたいと日々努力している。知人の訪問、家族との面会や外出、法事やお墓参り、衣類の買い物、また、日常の家事仕事や趣味の園芸に勤しんだり、ぬり絵、習字や生け花などそれぞれの得意とする事や今まで培ってきた経験を日常に活かす支援をしている。調理レクでは、ビヤガーデン、テラスでさんまや芋を焼いたり、いちご大福やトコロテンなどのおやつ作り、おやつバイキングなど自分で選ぶ楽しみ、晩酌の支援など食事を楽しむ支援に力を入れている。温かい日差しが降り注ぐ居間で、ゆったりとしたソファーに寛ぎテレビを観たり、入居者同士や職員と談笑したりして穏やかな時を過ごしている。

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	（1）	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員で話し合って考えた「家族のようなあたたかい家」という理念を共有し、思いやりを持って業務に当たっている。玄関と、ユニット内にも掲げている。	事業所理念は玄関や各ユニットに掲示し、誰もが目に留め確認できるようにしている。年度ごとに理念に基づき目標を立て運営計画に反映させながら実践している。職員は入居者のどこに寄り添っていくのか、どの様に接していくのかを考えながら、理念を見失わないように職員会議や申し送り時などで共有を深め、行動の指針として日々のケアを振り返りながら実践に努めている。	
2	（2）	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度も、地区の文化祭行事に入居者の作品を出品させてもらった。少しづつではあるが、ボランティア団体の慰問も再開し、散歩も継続しており、地域の方々と交流を深めている。	町内会に加入し、回覧板で情報を得ている。地域行事は再開され、入居者の状態や施設状況に応じて検討している。地区の文化祭に入居者の干支の作品を出展したり、近隣の商店とは継続して交流している。日々の散歩で行き交う地域の方々と挨拶を交わしたり、野菜などのお裾分けを頂くなど地域の一員として交流を深めている。ボランティア活動も再開し大正琴、手話サークル、サックス演奏など受け入れている。また、看護学校の実習生も受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域貢献の一環として、災害時に近所の方が避難してくる事を想定し、非常食などの備蓄品の量に余裕を持たせている。また、見学者の受け入れも積極的に行っている。		
4	（3）	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度、定期的に行えている。地域連携の意味合いで、回覧板を回して頂くようになり、地域の行事を知ることや参加できるようになっている。	運営推進会議は2か月に1回、入居者、町内会長、民生委員、市職員、地域包括支援センター職員、等の参加を得て開催している。事業所の運営状況や活動、研修内容などの報告説明を行い、参加者との積極的な意見交換が行われている。内容によっては、その場で話し合ったり、職員会議で検討しサービスの向上に活かしている。各委員や家族には議事録を配布している。家族の参加については課題としている。	運営推進会議は、家族や地域、行政などとの情報の交換の場であり、サービスの向上に繋がる機会であるため家族の意見も反映されることが望まれる。既存の会議形態に捉われず、家族が参加しやすい行事や試食会などを取り入れた柔軟的な方法で開催するなど、参加した方々の利となるような内容を検討し、サービスの質の向上に活かされることを望みたい。
5	（4）	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	主に運営推進会議の時に、制度上の事、届け出の事等を相談している他、入居者や待機者の情報交換も行っている。会議以外でも、疑問に思う事や感染症対策などについても連絡・相談を行い連携を強化している。	認定書類や更新の代行業務などで行政へ出向き、事業所の取り組みなどを伝え、アドバイスを受けている。何かあれば電話やファックス、メールなどで連絡を取り合い情報交換を行っている。運営推進会議に毎回の出席があり、法令に関する変更事項等の指導を受けたり、認定調査などで来訪し実地指導を受けるなど良好な協力関係にある。管理者は社協から「運営推進会議のあり方」の講師として依頼を受けている。	
6	（5）	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員会議でも研修・事例検討を行い、理解を深め、拘束をしないよう努めている。また、ユニット出入り口と玄関の施錠は最低限にするよう取り決めている。	身体拘束適正化委員会では拘束となる具体的な行為やヒヤリハットを基に、原因や対応について話し合い、拘束について理解を深め、特に言葉による拘束や薬による拘束などに配慮しながら身体拘束排除に向けたケアに取り組んでいる。年2回の基本となる拘束についての研修や、毎月の職員会議の中で研修する機会を設けながら、身体拘束や虐待に該当するような事例が発生していないかなど随時事例検討している。結果は運営推進会議で報告している。玄関の施錠は最小限度とし複数の見守りと対策で開放感のある環境作りに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	職員会議の研修などもあり、意識している。職員間でも言葉遣いに注意しあい、事故等があれば、原因を究明し家族に対して迅速に報告をしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員会議を利用して研修を行い、学ぶ機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が一元的に行っている。締結・解約は直接説明しており、改訂等は文書で説明の上同意書をいただいている。職員が問い合わせを受けた場合は管理者に繋ぎ対応するようにしている。		
10	（6）	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見や要望は随時受け付けており、管理者が内容を集約し、職員への指示を行い、運営に反映させるようにしている。感染対応に十分注意しながら家族からの急な外出や面会の申し出、受診等の依頼にも柔軟に対応している。	入居者からは日常ケアの中で意見や要望を聴いている。家族からは面会時や衣類等の届け物時、介護計画の見直しなどで直接意見や要望を聞いたり、電話やメールで尋ねたりしている。意見は管理者が内容を集約して職員へ周知し、運営に反映させている。家族には担当職員から毎月、日常の様子の報告と数枚の写真を送付している。また、3か月毎に、イベントや食レクの様子の写真にコメントも添えて掲載した「グループホーム通信」を、送付している。意見箱も設置し意見が述べやすい環境を整えている。	
11	（7）	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員は原則フロアで意見内容をまとめ、フロアリーダーを通じて報告を上げる。管理者は常時意見を受け付けており、内容を集約して施設長にも報告し、運営に役立てている。	管理者は相談員を兼ね、出勤時に声を掛けたり、各フロア一会議に出席するなどして話しやすい環境を作りに努めている。解決できる課題はその場で対応し、働きやすい職場環境作りに努めている。人事考課として、年2回の面談では目標の進捗状況の確認や振り返り、困りごとを聴くなどして意見を把握し処遇や運営に反映させている。職員は理念を活かした目標設定をして、自らの力量を正しく理解し、向上心を持ってより良いケアに繋げるよう努めている。職員は内部統制室に直接意見が述べられるシステムを利用することもできる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者からの報告や、各職員の面談に基づいて把握し評価している。勤務時間帯や希望休については、常勤・非常勤に関わらず各職員の希望を取り入れ調整を図っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月、職員会議で1～2題の内部研修を実施して技術と知識の向上に努めている。毎月の認知症ケアの専門性を高める研修も定着してきており、各職員へ割り振りし、更に意識づけを行っている。今年度は、リーダーが中心となり、チームワークづくりの研修も毎月実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	必要に応じて他施設の行事や研修に参加できる体制を取っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日常生活の中で出来る限り、コミュニケーションをとるように心掛け傾聴し、より良い関係作りに努めている。また、他フロアの職員とも情報交換を大切にし、家族からも情報を得るようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族からのニーズを職員が共有し、入居時や面会でみえた時などにお話を伺い、必要な内容は職員間で共有している。また、毎月1回近況を知らせる手紙を送付し、２～５枚のスナップ写真と共に日々の報告を行い理解を深めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前のアセスメント情報を共有し、職員間でのニーズの検討、ご家族にも意向を再度確認し、サービスに活かせるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	会話をしながら、その日の身体的・精神的状態をみて、出来る事（ご飯の盛り付け、洗濯干し、洗濯たたみ等）は一緒に行ってもらっている。出来ない部分は本人の自尊心を傷つけないよう配慮しながら支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会やプラン作成時には、家族のニーズもお聞きしている。必要に応じて家族に協力をお願いする事もある。 一定のルールのもと面会・外出を可能とし、家族との会話を大切にしている。		
20	（8）	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に来られた時には、感染症対策に配慮しながら、話が出来るよう環境作りに努めている。時には、思い出せない様子があるとスタッフが助け舟を出すなどして、ご本人・来訪者が傷付かないような配慮もする。フロア間でも他入居者の方の話が出たら、会いに行けるような交流もある。	入居時や日常の生活の会話の中で聞き取った生活歴や馴染みの人や場所を把握し、入居者が大切にしてきた物事が続けられるよう支援に努めている。知人の訪問や家族との面会、感染対策の一定のルールを設けながら家族との外出、法事やお墓参り、衣類の買い物に行くなどの馴染みの関係の継続に努めている。日常の家事仕事や趣味の園芸に勤しんだり、ぬり絵、習字や生け花などそれぞれの得意とする事や今まで培ってきた経験を日常に活かす支援をしている。地域の散歩やドライブなどに出掛け季節の移ろいや地域の風情などを感じられる支援にも努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日頃から、職員が会話やレクリエ―ションの際にご利用者の間に入り、興味のわく様な共通の話題を提供し、良い関係が続くように努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	基本的には、本人・家族及び現在サービスを受けている事業所等の求めに応じて対応するが、長期入院により退所された方については、継続して支援を続けている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で、会話、言動、表情などを汲み取り、本人様の思いに添えるように努めている。また、3ヶ月に1回のモニタリングにおいても希望、意向を聞き、話し合っている。	日々の関りの中で入居者とのさりげない会話や表情などをケアの中から感じ取ったり、就寝前のゆっくりした時間に思いや希望を丁寧に聞くようにしている。カンファレンスやモニタリング時に支援内容を検討したり、管理栄養士による嗜好調査や飲酒の相談に応じるなど丁寧に思いを把握している。思いの表出の少ない方は、身振りやうなづき、表情から思いを把握したり家族から話を聞いたりして、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の事前調査の内容や資料を職員間で共有し、本人や家族からも直接お話しをうかがうなどして、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状態観察と情報共有によって努めている。職員間で話し合って、変化に応じた対応方法を考え、現状や変更内容を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	申し送りやカンファレンス、モニタリング、フロア会議等を利用して話し合っている。ご家族にも計画作成担当者が直接意向を聞き、相談しながら計画づくりをしている。	担当者が事前に入居者や家族から意見や要望を聴き、施設サービス計画書を作成し日々の様子、状態、変化、ケアプラン等の目標達成度を毎日チェックしている。日々の申し送りや月1回のカンファレンス、フロア会議等で話し合い共有している。3か月毎に担当者と計画作成者がそれぞれモニタリングを行い両者でプランの評価を行っている。6か月毎に担当者や計画作成者が、本人の希望や家族の意向等踏まえながら、医療関係者などの意見も参考にして、現状に即した介護計画を作成している。状況に変化があれば随時の見直しも行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録には、日々の様子、状態、変化、ケアプラン等の記載をしている。職員間で情報共有し、話し合いながら介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状態・状況に応じたニーズ・サービスを導入するように努め、可能な限り柔軟な個別対応を行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	馴染みの場所として、津島神社、天王川公園、市立図書館、地域のスーパーに買い物に出かけたりしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本は同意のもとで嘱託医がかかりつけ医になり、定期的な訪問診療を行っている。希望に応じて以前からのかかりつけ医の診療を継続する事も可能である旨、入所前に説明している。	入居時にかかりつけ医か協力医かの希望を聞いている。入居者は定期的に委託医の訪問診療を受けている。かかりつけ医の継続や専門科の受診の場合は基本的に家族の協力を得ている。受診内容は申し送りで周知し家族と情報を共有している。希望があれば月1回、歯科の訪問診療が受けられる。週1回、訪問看護師に入居者の変化や状況を伝え情報を共有し、24時間体制で、医師や協力医療機関との連携により迅速で適切な医療が受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回の訪問時に変化や状況を伝え、助言をもらい、医療機関へ繋いでいる。また、急変時やケガ等があった際や夜間等も対応して頂いている。訪問看護師へ伝える事をまとめる用紙を作成して、漏れのないように努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	サマリーの提供や、必要に応じての情報交換を行っている。入所希望者の情報交換の兼ね合いもあり、市民病院の医療連携室とは連携をとっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時の重要事項説明において、事業所の現在の体制と方針を説明しているが、現在のスタッフは経験の浅いものも多く、積極的に看取りを行う予定はない。現状として、特養へ繋ぐレスパイトの位置づけになっている。	入居時に重度化や終末期に向けた事業所の方針を説明し同意を得ている。事業所として、職員の経験等を考慮し現在は積極的に看取りを行う予定はないが、看取りの手順書を準備し、精神的ケアについても研修している。重度化する可能性がある場合や状況が変化した場合は早めに家族に報告し、医師や看護師、その他関係機関と話し合いながら同法人の特養につなぐための支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し、職員会議において対応について研修を行っている。AEDを設置して以降、度々行った救急救命講習により全職員が対応できるよう備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、それぞれ昼と夜の想定で防災訓練を実施し、避難マニュアルを作成し、周知している。また、災害時は避難所で認知症の方々の対応に困るような場面で相談して欲しいと申し出ている。	年2回、3月と9月に昼間帯と夜間帯の職員体制で実施している。避難誘導や避難経路の確認、通報訓練など専門家による助言や指導を受けながら、地震から火災発生を想定した消火訓練を実施している。水害が予想される地域のため垂直避難訓練を予定しているが実施には至っていない。BCP計画を作成し、マニュアルを基に緊急時対応やAEDの講習を実施し周知している。備蓄は水や食品の他、懐中電灯やカセットコンロなどを備え、2階の地域交流室に保管し、9月の防災の日に合わせ食料を試食し入れ替えをしている。地域の災害時一時避難所として認知症の方々の支援や相談ができる事を行政に申し出ている。	様々な災害に備え、対応できる体制を整えているが、心配される水害に対しての垂直避難の訓練が未実施となっている。垂直避難時の注意すべき点や誘導の方法等を検討し、より安全性の高い訓練となるよう消防関係者などの助言も参考にしながら実施されることを願いたい。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	（14）	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その時の状況や、その方の性格も考慮して、話しかけ方などに配慮している。人生の先輩として敬意を払う気持ちで接し、優しく丁寧な声かけも意識している。	人生の先輩として接することを基本姿勢とし、基本呼称を「さん付け」にして、一人ひとりの人格を尊重した声掛けに努めている。理念の「家族のようなあたたかい家」を目指しながら、日々のケアの中で、親しさや馴れ馴れしさに配慮した快い対応や誰に聞かれても不快に思われない言葉使いに努め、入居者一人ひとりの目線に配慮した支援をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活の中で、ご自分で考えたり、決定してもらえるような声かけの文言にも気を付けている。自宅が気になる方もおられ、ドライブや散歩に出たりして、本人の意思を尊重して対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	全体で日課のベースはあるが、出来る限り一人一人の希望や、その時々の体調、気分に応じて柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分で出来る方は自由に楽しんでいただき、そうでない方も着替えの衣類を一緒に選んだり、身につける物を一緒に買いに行くことも行う。		
40	（15）	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付け、配膳、片付けは、職員とできる入居者が協力して毎日行っている。また、管理栄養士が施行調査を行っているため、苦手なものは差し替えメニューにて対応している。育てた野菜を使って調理レクやおやつ作り、喫茶なども定期的に行っている。	法人の管理栄養士による献立で1階の厨房で調理し、嗜好調査をしながら入居者の好みや季節感に配慮した食事を提供している。ご飯は各ユニットで入居者の状態に合わせて炊いている。盛り付けや配膳、後片付けはその方の得意分野を活かし、職員と共に行っている。菜園で取れたスイカ、きゅうり、枝豆、みかんは食卓の彩に加えている。調理レクのビヤガーデン、テラスでさんまや焼き芋を焼いたり、いちご大福やトコロテンなどのおやつ作り、おやつバイキングなど自分で選ぶ楽しみを取り入れ、食事を楽しむ支援に力を入れている。また、入居者が希望すれば、晩酌の支援にも対応している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	嗜好や体調に合わせて種類や量、食形態やトロミつけなどの調整を行っている。水分摂取不足にならないように、摂取内容や時間、声掛けの仕方にも気を付けており、季節にあわせて摂取量を調整している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、その人に合わせた援助（声掛けのみ、道具を渡して誘導、一部介助、全介助）や、ケア用品を増やして口臭ケアにも配慮している。義歯を外すなど嫌がられる事もあるが、時間を空けてたり、違う職員が声掛けしたりして対応している。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンの把握に努め、その方に合わせた時間や動きを見て、声掛け誘導を行うようにしている。夜間ADLが低下する方には、ポータブルを利用して対応している。	排泄状況を確認し個々の排泄パターンを把握している。個々のタイミングに合わせた声掛けやさりげない誘導に努め、尿意を感じ自力でトイレでの排泄が維持できるように支援している。夜間も、睡眠を妨げる事無く、丁寧な見守りの支援と誘導を行っている。夜間のみポータブルを利用し安心して排泄ができるよう配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々に排便状況を把握し、飲料や運動を勧めたり、摂取物を工夫し、予防に取り組んでいる。施設でも乳製品を全入居者様に提供するようにし、自己排便を促すようにしている。それでも改善しない時には、内服薬等で調整している。出来る限り、内服薬に頼りすぎないよう努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	なるべく希望に沿うよう対応しているが、基本の曜日や時間帯は決まっている。気持ちよく入浴できるように、声掛け誘導にも個別に配慮をしている。	入浴は週2～3回を目安に午後の時間帯で支援している。湯や足ふきマットは一人ひとり取替えて清潔保持に留意し、好みの入浴剤や湯の温度にも個別に対応している。1階に入浴用リフトを設置し、入居者の状態に応じて利用している。また、希望があれば同性介助にも対応している。季節のゆず湯やしょうぶ湯などを懐かしんだり香りを感じたりしながら入浴を楽しんでいる。入浴を拒む方には、声かけを工夫したりタイミングを見計らいながら気持ちよく入浴できるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活パターンに合わせて休んでいただいている。日中休みたい方には休んで頂くが、昼夜逆転しないようにも、注意している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容の変更があった時などには、フロアの職員が分かるように申し送りをする。また変更時には、2週間の経過観察をするように取り決めている。何かあれば、すぐに医師又は薬剤師へ24時間連絡できる体制を設けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人の趣味や特技、好きそうな事を生かしたレクや作品づくり（絵手紙、ちぎり絵、編み物など）、歌、脳トレ（間違い探しや計算問題、大人の塗り絵、習字など）庭木の手入れ、野菜作りなどを提供するようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	感染症に配慮し、散歩や近所への買い物には随時対応できるように努めている。また、ミカン狩りやドライブ等、可能な範囲で対応をしている。時には、家族の方にも協力してもらい、気分転換に外へ連れ出して頂く事もある。	天気の良い日には出来るだけ散歩に出かけ、秋には施設のミカン狩りを楽しむなど外気に触れる支援に心掛けている。感染対策に留意しながら近所の衣料品店で好みの洋服を購入したり農協で花や野菜の種を購入するなどの入居者の意欲に配慮した支援に努めている。また、神社に初詣や公園など可能な範囲で、デイサービスのバスを利用して外出の支援を行っている。また、家族の協力を得て気分転換の外出支援も行っている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は事務所管理。買い物の時など、可能な方には自分で財布を持って支払ってもらったりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて対応している。携帯電話も持ち込み可で、時々話されている。また、個別で届いた手紙や葉書には、職員の取り次ぎでお礼の電話を入れたりはがきの交換も行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁面などを利用して季節感のある作品や習字では季節感のある言葉を書いて頂き飾っている。席は、机の配置も含め、ご利用者同士の相性や空調温度を配慮して決めている。幼稚園のような賑やかな飾りではなく大人の空間を意識した居場所作りに心掛けている。	南向きの広い食堂兼居間は日当たりも良く開放感がある。ホール全体を見渡せ、入居者の様子を把握することが出来る。壁面には季節感のある作品や習字等個々の作品が飾られている。同法人の施設で作られた台形のテーブルは配置が自在で、密にならない配置や入居者の相性などに配慮した居心地の良い生活環境を提供している。入居者はゆったりとしたソファーでテレビを観たり、入居者同士や職員と歓談をするなどして穏やかな時間を過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自分の席以外に自由に使えるソファーや相性を考慮した席など配慮しており、独りが好きな方も、仲の良い方同士も、自由に過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や家族との写真などを持って来て使用されている。物や衣料を自分で整理できない方もあり、担当者が一緒に居室の環境作りに努めている。身の回りのことができる方は、居室掃除も一緒に行っている。	居室には、エアコン、ベット、クローゼットが設備されている。入居時に家族と相談して使い慣れた馴染みの家具やテレビなどを持ち込み自宅にいるような環境を整えている。また、自分の好きな写真や作品、カレンダーを飾って居心地の良い自分の部屋作りをしている。入居者ご自身で整理、整頓、掃除をしたり、職員が手伝うなどして居心地の良い清潔な居室空間を維持している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室に、その方の状態に合わせた迷わない為の目印を付ける等の対応をしている。		

（別紙4）　令和　6　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	2392700031		
法人名	社会福祉法人　愛燦会		
事業所名	グループホーム長寿の家（さくらユニット）		
所在地	愛知県津島市江西町4-148		
自己評価作成日	令和6年11月25日	評価結果市町村受理日	令和7年4月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2392700031-00&ServiceCd=320&Type=search

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人あいち福祉アセスメント
所在地	愛知県東海市東海町二丁目6番地の5　かえでビル　2階
訪問調査日	令和7年2月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

いつまでも住み慣れた地域で、顔なじみの関係の中安心で安全な高齢期の生活を送れるよう「あたたかい家」を目標に取り組んでいます。少人数だからこそ、細やかな対応ができ、安心で穏やかな生活を一日でも多く過ごす事を目的に数々のプログラムや支援体制が考えられています。
①毎月の食事レクリエーションの開催
②週に一度以上イベントや運動プログラムの実践を行う
③食事の支度や後片付け、洗濯物干し等の家事なども職員と共同で行う事で、生活リハビリや日常生活自立度の維持に努めている
④感染症に十分配慮しながらその中でも実行可能なプログラム(園芸や手芸)を行い、また、ご近所からのおすそ分けなどを利用した食レクを楽しむことができ、地域とのつながりを感じることが出来ます。
⑤三方よしプラス1の運営　入居者様ご本人・ご家族・地域の方々に加え働いている職員にも良いと思っていただけるようグループホームとしての「社会的意義」を常に考え運営の基本とする。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

事業所は開設14年を迎え、閑静な住宅地に位置している。藤の花の名所となっている天王寺川公園が近くにあり、藤祭りや天王祭りなどに出かけ賑わいや懐かしみ、季節の移ろいなどを感じる場所ともなっている。町内会との関りの継続性や文化祭に入居者の作品出展、散歩や買い物、大正琴やサックス演奏などのボランティア活動も順次再開し、以前のように地域の一員として交流を深めている。法人の理念を基に、職員で考えた事業所理念「家族のようなあたたかい家」を拠り所に入居者に寄り添ったケアに努めながら、より一層地域に密着したグループホームにしていきたいと日々努力している。知人の訪問、家族との面会や外出、法事やお墓参り、衣類の買い物、また、日常の家事仕事や趣味の園芸に勤しんだり、ぬり絵、習字や生け花などそれぞれの得意とする事や今まで培ってきた経験を日常に活かす支援をしている。調理レクでは、ビヤガーデン、テラスでさんまや芋を焼いたり、いちご大福やトコロテンなどのおやつ作り、おやつバイキングなど自分で選ぶ楽しみ、晩酌の支援など食事を楽しむ支援に力を入れている。温かい日差しが降り注ぐ居間で、ゆったりとしたソファーに寛ぎテレビを観たり、入居者同士や職員と談笑したりして穏やかな時を過ごしている。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

No.	項　目	↓該当するものに○印	取り組みの成果
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目：9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている (参考項目：11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	（1）	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員で話し合って考えた「家族のようなあたたかい家」という理念を共有し、思いやりを持って業務に当たっている。玄関と、ユニット内にも掲げている。		
2	（2）	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度も、地区の文化祭行事に入居者の作品を出品させてもらった。少しづつではあるが、ボランティア団体の慰問も再開し、散歩も継続しており、地域の方々と交流を深めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域貢献の一環として、災害時に近所の方が避難してくる事を想定し、非常食などの備蓄品の量に余裕を持たせている。また、見学者の受け入れも積極的に行っている。		
4	（3）	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度、定期的に行えている。地域連携の意味合いで、回覧板を回して頂くようになり、地域の行事を知ることや参加できるようになっている。		
5	（4）	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	主に運営推進会議の時に、制度上の事、届け出の事等を相談している他、入居者や待機者の情報交換も行っている。会議以外でも、疑問に思う事や感染症対策などについても連絡・相談を行い連携を強化している。		
6	（5）	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員会議でも研修・事例検討を行い、理解を深め、拘束をしないよう努めている。また、ユニット出入り口と玄関の施錠は最低限にするよう取り決めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	職員会議の研修などもあり、意識している。職員間でも言葉遣いに注意しあい、事故等があれば、原因を究明し家族に対して迅速に報告をしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員会議を利用して研修を行い、学ぶ機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が一元的に行っている。締結・解約は直接説明しており、改訂等は文書で説明の上同意書をいただいている。職員が問い合わせを受けた場合は管理者に繋ぎ対応するようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見や要望は随時受け付けており、管理者が内容を集約し、職員への指示を行い、運営に反映させるようにしている。感染対応に十分注意しながら家族からの急な外出や面会の申し出、受診等の依頼にも柔軟に対応している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員は原則フロアで意見内容をまとめ、フロアリーダーを通じて報告を上げる。管理者は常時意見を受け付けており、内容を集約して施設長にも報告し、運営に役立てている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者からの報告や、各職員の面談に基づいて把握し評価している。勤務時間帯や希望休については、常勤・非常勤に関わらず各職員の希望を取り入れ調整を図っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月、職員会議で1～2題の内部研修を実施して技術と知識の向上に努めている。毎月の認知症ケアの専門性を高める研修も定着してきており、各職員へ割り振りし、更に意識づけを行っている。今年度は、リーダーが中心となり、チームワークづくりの研修も毎月実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	必要に応じて他施設の行事や研修に参加できる体制を取っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日常生活の中で出来る限り、コミュニケーションをとるように心掛け傾聴し、より良い関係作りに努めている。また、他フロアの職員とも情報交換を大切にし、家族からも情報を得るようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族からのニーズを職員が共有し、入居時や面会でみえた時などにお話を伺い、必要な内容は職員間で共有している。また、毎月１回近況を知らせる手紙を送付し、２～５枚のスナップ写真と共に日々の報告を行い理解を深めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前のアセスメント情報を共有し、職員間でのニーズの検討、ご家族にも意向を再度確認し、サービスに活かせるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	会話をしながら、その日の身体的・精神的状態をみて、出来る事（ご飯の盛り付け、洗濯干し、洗濯たたみ等）は一緒に行ってもらっている。出来ない部分は本人の自尊心を傷つけないよう配慮しながら支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会やプラン作成時には、家族のニーズもお聞きしている。必要に応じて家族に協力をお願いする事もある。 一定のルールのもと面会・外出を可能とし、家族との会話を大切にしている。		
20	（8）	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に来られた時には、感染症対策に配慮しながら、話が出来るよう環境作りに努めている。時には、思い出せない様子があるとスタッフが助け舟を出すなどして、ご本人・来訪者が傷付かないような配慮もする。フロア間でも他入居者の方の話が出たら、会いに行けるような交流もある。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日頃から、職員が会話やレクリエ―ションの際にご利用者の間に入り、興味のわく様な共通の話題を提供し、良い関係が続くように努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	基本的には、本人・家族及び現在サービスを受けている事業所等の求めに応じて対応するが、長期入院により退所された方については、継続して支援を続けている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で、会話、言動、表情などを汲み取り、本人様の思いに添えるように努めている。また、3ヶ月に1回のモニタリングにおいても希望、意向を聞き、話し合っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の事前調査の内容や資料を職員間で共有し、本人や家族からも直接お話しをうかがうなどして、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状態観察と情報共有によって努めている。職員間で話し合って、変化に応じた対応方法を考え、現状や変更内容を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	申し送りやカンファレンス、モニタリング、フロア会議等を利用して話し合っている。ご家族にも計画作成担当者が直接意向を聞き、相談しながら計画づくりをしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録には、日々の様子、状態、変化、ケアプラン等の記載をしている。職員間で情報共有し、話し合いながら介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状態・状況に応じたニーズ・サービスを導入するように努め、可能な限り柔軟な個別対応を行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	馴染みの場所として、津島神社、天王川公園、市立図書館、地域のスーパーに買い物に出かけたりしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本は同意のもとで嘱託医がかかりつけ医になり、定期的な訪問診療を行っている。希望に応じて以前からのかかりつけ医の診療を継続する事も可能である旨、入所前に説明している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回の訪問時に変化や状況を伝え、助言をもらい、医療機関へ繋いでいる。また、急変時やケガ等があった際や夜間等も対応して頂いている。訪問看護師へ伝える事をまとめる用紙を作成して、漏れのないように努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	サマリーの提供や、必要に応じての情報交換を行っている。入所希望者の情報交換の兼ね合いもあり、市民病院の医療連携室とは連携をとっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時の重要事項説明において、事業所の現在の体制と方針を説明しているが、現在のスタッフは経験の浅いものも多く、積極的に看取りを行う予定はない。現状として、特養へ繋ぐレスパイトの位置づけになっている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し、職員会議において対応について研修を行っている。AEDを設置して以降、度々行った救急救命講習により全職員が対応できるよう備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、それぞれ昼と夜の想定で防災訓練を実施し、避難マニュアルを作成し、周知している。また、災害時は避難所で認知症の方々の対応に困るような場面で相談して欲しいと申し出ている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その時の状況や、その方の性格も考慮して、話しかけ方などに配慮している。人生の先輩として敬意を払う気持ちで接し、優しく丁寧な声かけも意識している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活の中で、ご自分で考えたり、決定してもらえるような声かけの文言にも気を付けている。自宅が気になる方もおられ、ドライブや散歩に出たりして、本人の意思を尊重して対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	全体で日課のベースはあるが、出来る限り一人一人の希望や、その時々の体調、気分に応じて柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分で出来る方は自由に楽しんでいただき、そうでない方も着替えの衣類を一緒に選んだり、身につける物を一緒に買いに行くことも行う。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付け、配膳、片付けは、職員とできる入居者が協力して毎日行っている。また、管理栄養士が施行調査を行っているため、苦手なものは差し替えメニューにて対応している。育てた野菜を使って調理レクやおやつ作り、喫茶なども定期的に行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	嗜好や体調に合わせて種類や量、食形態やトロミつけなどの調整を行っている。水分摂取不足にならないように、摂取内容や時間、声掛けの仕方にも気を付けており、季節にあわせて摂取量を調整している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、その人に合わせた援助（声掛けのみ、道具を渡して誘導、一部介助、全介助）や、ケア用品を増やして口臭ケアにも配慮している。義歯を外すなど嫌がられる事もあるが、時間を空けてたり、違う職員が声掛けしたりして対応している。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
43	（16）	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンの把握に努め、その方に合わせた時間や動きを見て、声掛け誘導を行うようにしている。夜間ADLが低下する方には、ポータブルを利用して対応している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々に排便状況を把握し、飲料や運動を勧めたり、摂取物を工夫し、予防に取り組んでいる。施設でも乳製品を全入居者様に提供するようにし、自己排便を促すようにしている。それでも改善しない時には、内服薬等で調整している。出来る限り、内服薬に頼りすぎないよう努めている。		
45	（17）	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	なるべく希望に沿うよう対応しているが、基本の曜日や時間帯は決まっている。気持ちよく入浴できるように、声掛け誘導にも個別に配慮をしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活パターンに合わせて休んでいただいている。日中休みたい方には休んで頂くが、昼夜逆転しないようにも、注意している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容の変更があった時などには、フロアの職員が分かるように申し送りをする。また変更時には、2週間の経過観察をするように取り決めている。何かあれば、すぐに医師又は薬剤師へ24時間連絡できる体制を設けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人の趣味や特技、好きそうな事を生かしたレクや作品づくり（絵手紙、ちぎり絵、編み物など）、歌、脳トレ（間違い探しや計算問題、大人の塗り絵、習字など）庭木の手入れ、野菜作りなどを提供するようにしている。		
49	（18）	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	感染症に配慮し、散歩や近所への買い物には随時対応できるように努めている。また、ミカン狩りやドライブ等、可能な範囲で対応をしている。時には、家族の方にも協力してもらい、気分転換に外へ連れ出して頂く事もある。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は事務所管理。買い物の時など、可能な方には自分で財布を持って支払ってもらったりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて対応している。携帯電話も持ち込み可で、時々話されている。また、個別で届いた手紙や葉書には、職員の取り次ぎでお礼の電話を入れたりはがきの交換も行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁面などを利用して季節感のある作品や習字では季節感のある言葉を書いて頂き飾っている。席は、机の配置も含め、ご利用者同士の相性や空調温度を配慮して決めている。幼稚園のような賑やかな飾りではなく大人の空間を意識した居場所作りに心掛けている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自分の席以外に自由に使えるソファーや相性を考慮した席など配慮しており、独りが好きな方も、仲の良い方同士も、自由に過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や家族との写真などを持って来て使用されている。物や衣料を自分で整理できない方もあり、担当者が一緒に居室の環境作りに努めている。身の回りのことができる方は、居室掃除も一緒に行っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室に、その方の状態に合わせた迷わない為の目印を付ける等の対応をしている。		